

さいたまこどもエコ検定2026に チャレンジしよう！（中級）

点数: 10/10

●第1問

✓ 正解 1/1 点数

1

近年は、地球温暖化によって、夏の暑さがどんどんきびしくなっています。一人一人どのような行動を心がけるべきでしょうか。当てはまるものを全て選びましょう。



- ☒ ① エアコンをがまんせず、必要なときに使う ✓
- ☒ ② のどがかわく前に、こまめに水やお茶を飲む ✓
- ☒ ③ 外では、ぼうしをかぶったり、日かげで休んだりする ✓

正解は ①②③のすべてです。

正解は ①②③のすべてです。暑い夏を安全に過ごすためには、いくつかの大切なポイントがあります。①のようにエアコンを必要なときに使うことで、室内の温度を下げ、体にかかる負担をへらすことができます。暑さをがまんすぎると、体調をくずしてしまいます。②のように、のどがかわく前にこまめに水などを飲むことも大切です。体は暑さによって水分を失いやすく、気づかいうちに体の中の水分が不足してしまいます。③のように、外ではぼうしをかぶったり、日かげで休んだりすることで、強い日差しをさけることができます。参考までに、2024年の厚生労働省（こうせいろうどうしょう）のデータでは、熱中しょうで約2,160人がなくなるなど、大変な問題となっています。熱中しょうは、気温や湿度（しつど）が高いときに、体の熱をうまく下げられなくなることで起こります。特に高熱い者や子どもは注意が必要です。近年は地球温暖化により暑さがきびしくなっているため、一人一人がこれらの行動を心がけることが大切です。



●第2問

✓ 正解 1/1 点数

2

日本では、宅配便の荷物をとどけに行ったとき、家の人がいなくて荷物をもう一度とどける「再配達」が問題になっています。
では、現在の再配達の割合はどのくらいでしょうか。



- ☐ ① 約100個に1個（約1%）
- ☐ ② 約20個に1個（約5%）
- ☒ ③ 約10個に1個（約10%） ✓

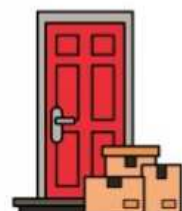
正解は ③ 約10個に1個（約10%）です。

正解は ③ 約10個に1個（約10%）です。2024年4月に、国土交通省（国の役所）が調べたところ、宅配便の再配達になる割合は約10.4%（10個に1個くらい）でした。これは、前年の同じ月（約11.4%）よりも少なくなっていて、取組の効果で、再配達は少しずつへってきていることがわかります。再配達がふえると、配達の車が何度も走ることになり、二酸化炭素（CO₂）というガスがたくさん出て、地球の環境をわるくしてしまいます。また、配達をする人の仕事が多くなります。そこで、次のような工夫が大切です。・家にいる時間に合わせて、受け取る時間を指定する・置き配（家の前などに置いてもらう方法）を使う・家族と相談して、だれかが受け取れるようにするこのように、一人一人が工夫することで、再配達をへらすことができます。いつもの小さな行動が、環境を守ることや、働く人を助けることにつながります。

宅配便再配達実態調査結果の推移

国土交通省

実態調査に基づく再配達率の推移（総計）



●第3問

✓ 正解 1/1 点数

3

冷とう庫の中への食品の入れ方は、どれが一番、エネルギーのむだをへらすことでしょうか。



- ☐ ① 少し入っている
- ☐ ② 空っぽ
- ☒ ③ ぎゅうぎゅう ✓

正解は ③ ぎゅうぎゅう です。



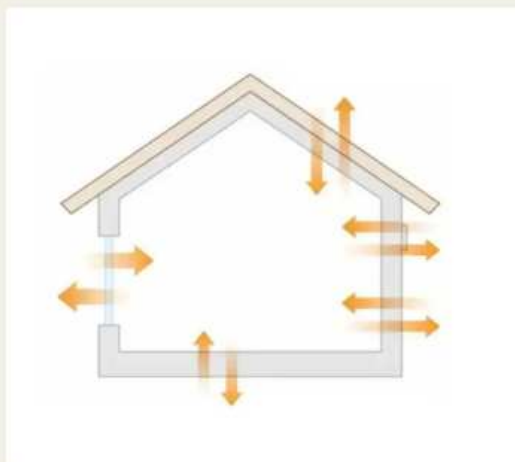
正解は ③ ぎゅうぎゅう です。冷とう庫は、中に食品をしっかり入れておくほうが電気をむだにしないため、省エネになります。それは、冷たい食品がおたがいに冷やし合う働きをして、冷たい温度をたもちやすくなるからです。反対に、冷とう庫の中が少ないと、ドアを開けたときにあたたかい空気が入りやすくなり、中の温度が上がります。そのため、もう一度強く冷やす必要があり、電気を多く使ってしまいます。もし冷とう庫にすき間があるときは、ほれいざいや、水を入れたペットボトルをこおらせて入れると、温度が上がりにくくなり、省エネにつながります。また大切なポイントとして、冷そう庫は入れすぎないほうがよいです。冷そう庫は、すき間があるほうが空気が流れて、むらなく冷やすことができるからです。このように、冷とう庫と冷そう庫のちがいを考えて使うことが、電気を大切に使うことにつながります。

●第4問

✓ 正解 1/1 点数

4

夏や冬に、冷ぼうやだんぼうを使っても、外から熱が入ってきたり、家の外に熱がにげたりします。それでは、家の中で一番熱の出入りが多い場所は、どこでしょうか。



☒ ① 窓 ✓

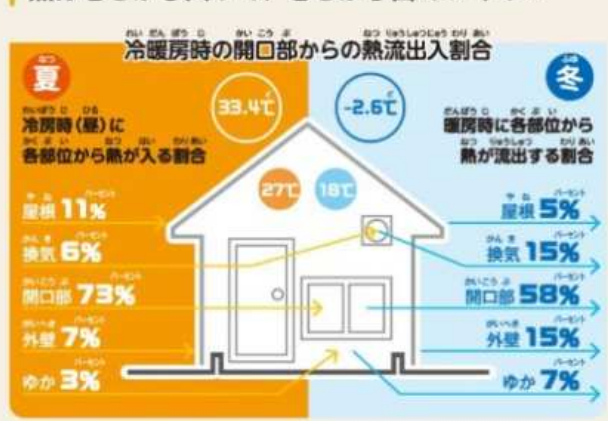
☐ ② かべ

☐ ③ 屋根

正解は ① 窓 です。

正解は ① 窓 です。家の中の熱は、かべや屋根からも出入りしますが、一番多く熱が出入りするのは「窓（開口部）」です。図を見ると、夏は外から入ってくる熱の73%、冬はにげていく熱の58%が、窓から出入りしていることがわかります。これは、窓に使われているガラスには、かべなどに比べて熱を通しやすい仕組みがあるからです。そのため、夏は外の暑さが窓から入りやすく、冬はだんぼうであたためた空気が窓から外へにげやすくなります。こうした熱の出入りをふせぐためには、次のような工夫が大切です。・カーテンやブラインドをしめる・断熱効果のある窓（ペアガラスなど）を使う・窓にすき間があるときはテープなどでふさぐこれらの工夫をすると、部屋の温度が変わりにくくなり、エアコンやだんぼうの電気のむだづかいをへらすことができます。

熱はどこから入って、どこから出ていくの？



出典：全国地球温暖化防止活動推進センター



●第5問

✓ 正解 1/1 点数

5

日本では、さまざまな物がリサイクルされています。
次のうち、一番リサイクルが進んでいるものは
どれでしょうか。



- ☐ ① 洋服の生地
- ☒ ② ペットボトル ✓
- ☐ ③ 牛乳パック

正解は ②ペットボトル です。

正解は ②ペットボトル です。日本のペットボトルのリサイクル率は、約86%もあり、世界の中でもトップクラスに高い数字です。みんながしっかりキャップやラベルを外して、中を洗ってから資源物に出してくれているおかげで、これだけたくさんのペットボトルがリサイクルできています。集められたペットボトルは、細かくくだかれて、もう一度「ペットボトル」に生まれ変わったり、みんなが着ている「フリース（洋服）」や「卵のパック」などに生まれ変わっています。①の洋服の生地は、リサイクル率は8%です。ペットボトルにはかないませんが、服を売っているお店やショッピングモールなどで古着を回収してリサイクルする取り組みも広がっています。リサイクルボックスを探してみましょう。③の牛乳パックもリサイクルされて、トイレトーパーやティッシュペーパーなどに生まれ変わりますが、お店や学校の回収ボックスに届く割合は、ペットボトルに比べるとまだ低いです。ペットボトルのリサイクルをさらに進めるためには、みんなが「①キャップを外す」「②ラベルをはがす」「③中をさっと水で洗う」ことがとても大切です。これからも、地球にやさしい分別を続けていきましょう！



●第6問

✓ 正解 1/1 点数

6

リチウムイオン電池は、軽くて多くの電気をためられる便利な電池であり、じゅう電してくり返し使う機器（スマートフォン/けい帯がたゲーム機など）に使われています。次のリチウムイオン電池の説明のうち、正しいものはどれでしょうか。



- ☒ ① リチウムイオン電池は強い力が加わると発火することがある ✓
- ☐ ② 使い終わったリチウムイオン電池は、燃えないごみ（不燃ごみ）としてする
- ☐ ③ リチウムイオン電池は、水にぬれても絶対に火が出ない安全な電池である

正解は ①リチウムイオン電池は強い力が加わると発火することがある です。

正解は ①リチウムイオン電池は強い力が加わると発火することがある です。リチウムイオン電池は、スマートフォンやゲーム機、コードレス掃除機など、家の中のたくさんの便利な機械に使われています。しかし、中に入っている液は燃えやすく、ごみ収集車（パッカー車）でつぶされたり、ごみをしよりするしせつで強い力が加わって傷がついたりすると、突然大きな火が出てしまうことがあります。さいたま市でも、ごみに出されたリチウムイオン電池のせいで、ごみ収集車やごみしよりしせつが燃えてしまう火災が実際に起きていて、とても危険です。②について、リチウムイオン電池は、「燃えないごみ」には絶対に出してはいけません。さいたま市では、スマートフォンや電動歯ブラシなどの小型の機器は、市役所や区役所、公民館などに設置されている「小型家電回収ボックス」に入れるルールになっています。また、本体から取り出すことができたリチウムイオン電池については、小型家電回収ボックスの側に置いてある白い「電池回収ボックス」か、電気店やスーパーなどの協力店に設置されている「充電式電離リサイクルボックス」に入れることとされています。③については、リチウムイオン電池は、強い力でつぶされるだけでなく、水にぬれることでショートして火が出ることがあります。雨の日にごみに出したり、ぬれた手でさわったりするのも危険です。使い終わったゲーム機やスマートフォンをすてるときは、おうちの人と一緒に、さいたま市の正しいすて方（回収ボックス）を必ずかくにんして、安全にリサイクルできるように協力してください！



●第7問

✓ 正解 1/1 点数

7

令和7年4月に、見沼環境センターという新しい焼きゃくしせつができました。このしせつでは、ごみをもやしたときに出る熱を、いろいろなことに利用していますが、その利用方法としてあてはまるものはどれでしょうか。すべて選びましょう。

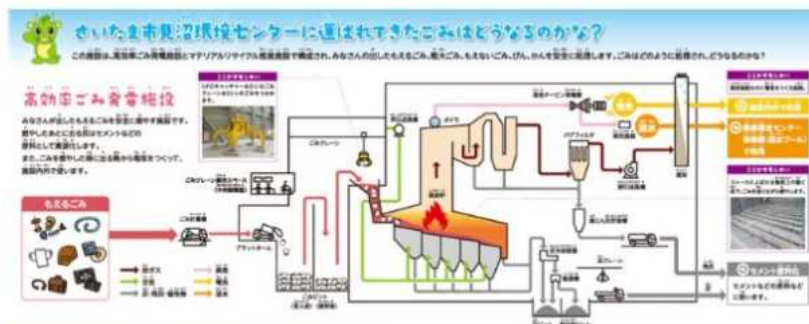


見沼環境センター

- ☒ ① しせつ内の冷だんぼう・給湯 ✓
- ☒ ② 発電 ✓
- ☒ ③ 水を温めて、温浴しせつのおふろやプールで使う。 ✓

正解は ①・②・③ すべてです。

正解は ①・②・③ すべてです。見沼環境センターでは、ごみを燃やしたときに出る熱をむだにせず、電気を作ったりお湯をわかしたりすることに利用しています。まず、ごみを燃やすと高い熱が出ます。その熱を使って、ボイラーというそう置で、とても熱いじょう気を作ります。このじょう気を使って、発電（電気を作ること）し、しせつの中の明かりや機械の運転、冷だんぼうなどに使っています。また、使いきれなかった電気は売電して、ほかにも送ることもできます。さらに、発電のあとに残った熱でお湯をわかし、それを他のしせつに送ります。このお湯は、温浴しせつのおふろや、プールを温めるのに使われています。このように、見沼環境センターでは、ごみを燃やすだけでなく、出た熱をむだなく利用しています。



温浴施設



温水プール

●第8問

✓ 正解 1/1 点数

8

本来は、まだ食べられるのに、すてられてしまう食品のことを「食品ロス」と言います。「しょうみきげん」とは、おいしく食べられる期間の目安のことです。この期間をすぎても、すぐに食べられなくなるわけではありません。そこで問題です。お店で、しょうみきげんが近づいているパンが売られていました。食品ロスをへらす行動として、正しいものはどれでしょうか。



- ☐ ① 一番きげんが長いものを、たなのおくから選んで買う
- ☒ ② すぐに食べるので、きげんの近いものを選んで買う ✓
- ☐ ③ すべての商品を買って、食べきれなかった分はすてる

正解は② すぐに食べるので、きげんの近いものを選んで買う です。

正解は② すぐに食べるので、きげんの近いものを選んで買う です。買ってすぐに食べる場合は、しょうみきげんの近い商品を選ぶことで、お店での売れのこりによる食品ロスをへらすことができます。このように、商品のたなの手前にあるきげんの近いものから選んで買う行動は「手前どり」とよばれています。食品ロスをへらすための身近な取り組みとして、ぜひ覚えておきましょう。



●第9問

✓ 正解 1/1 点数

9

もともとその場所にいなかったのに、人の手などで他の国や地域からやってきた生き物のことを外来生物（がいらいせいぶつ）といいます。その中でも、日本の自然や、もともといた生き物のくらしをこわしてしまうおそれがあるものは、日本の法（りつ）（外来生物法）で特定外来生物（とくていがいらいせいぶつ）として決められています。では、次のうち、市内でかくにんされている特定外来生物はどれでしょうか。



セアカゴケグモ

※写真提供：環境省



ヒアリ



モンシロチョウ

☒ ① セアカゴケグモ ✓

☐ ② ヒアリ

☐ ③ モンシロチョウ

正解は ① セアカゴケグモ です。

正解は ① セアカゴケグモ です。もともとその場所にいなかったのに、人の手などでほかの国や地域から入ってきた生き物を外来生物といいます。その中でも、日本の自然やもとの生き物のくらしをこわしてしまうおそれがあるものは、法（りつ）で特定外来生物と決められています。セアカゴケグモは、市内でもかくにんされている特定外来生物で、毒をもっているため、人にとっても危ないです。そのため、見つけたときは、さわらずに大人に知らせることが大切です。②のヒアリもきけんな特定外来生物ですが、さいたま市ではかくにんされていません。③のモンシロチョウは、昔から定着している生き物なので、特定外来生物ではありません。このように、外来生物について正しく知ることは、身の安全や自然を守ることに繋がります。



セアカゴケグモ

※写真提供：環境省

特定外来生物



ヒアリ

特定外来生物

※さいたま市では見つかりません



モンシロチョウ

●第10問

✓ 正解 1/1 点数

10

家庭からは、さまざまな水が出ていますが、の中には、水や川・海を特によごしやすい水があります。
それでは、家庭から出る水のうち、一番水をよごすといわれているものは、次のうちどれでしょうか。



- ☐ ① お風呂のいい水
- ☐ ② トイレのいい水
- ☒ ③ 台所のいい水 ✓

正解は ③ 台所のいい水 です。

正解は ③ 台所のいい水 です。お風呂やトイレのいい水もよごれはありますが、水でうすまっていることが多く、下水処理場（いい水をきれいにする場所）でしっかりきれいにされます。一方で、台所のいい水には、食べ物の油やのこりかす、しょうゆなどの調味料といった、水をよごしやすいものがたくさんふくまれています。とくに油は、水にとけにくく、水の上に広がってしまうため、少しの量でもたくさん水をよごしてしまいます。水をよごさないためには、次のような工夫が大切です。・使った油は、そのまま流さず、紙や布でふき取る・食べ残しや細かいごみは、水に流さずにする・皿やなべのよごれは、さっとふいてからあらうこのような行動をすると、川や海の水をきれいに守ることができます。台所から出る水は、わたしたちのくらしに一番身近ないい水です。だからこそ、一人一人の小さな工夫が、大きな効果につながります。

